

## マテリアリティの目標と進捗

2019年度の計画・KPI	2019年度の進捗結果	2020年度の計画・KPI	2020年度の進捗結果	2021年度の計画・KPI
<b>革新的な医薬品の創製</b> 中長期目標：革新的な医薬品の創製を通じ、いまだに満たされない医療ニーズに応え、世界中の人々の健康に貢献する				
①創薬スピードを上げ、研究開発の各段階の所要期間を短縮する。	研究開発の取組み及び進捗状況は、決算短信及び有価証券報告書に詳述しておりますのでそちらをご参照ください。	①創薬スピードを上げ、研究開発の各段階の所要期間を短縮する。	✓ オープンイノベーションの新たな仕組みとして Ono Venture Investment を設立	オープンイノベーションを活用し、がん、免疫疾患、中枢神経疾患およびスペシャリティ領域の重点研究領域を中心に開発パイプラインを拡充する。 <b>KPI</b> ✓ 承認取得数、臨床移行数、前臨床移行数、導入品獲得数
②オープンイノベーションを活用し、がん、免疫疾患、中枢神経疾患およびスペシャリティ領域の重点研究領域を中心に開発パイプラインを拡充する。		②オープンイノベーションを活用し、がん、免疫疾患、中枢神経疾患およびスペシャリティ領域の重点研究領域を中心に開発パイプラインを拡充する。	開発品の主な進捗状況については、決算短信（決算補足資料）に詳述しておりますのでそちらをご参照ください。	
<b>知的財産戦略</b> 中長期目標：社内知的財産の掘り起こしに加え、知的財産価値最大化の観点から製品ライフサイクルマネジメントを強化する。医療アクセス改善を目的とした知的財産利用を積極的に検討する				
①知的財産の重要性を啓発し、社内知的財産の掘り起こし機会の創出を目的とした、社内各部署との説明会、意見交換会を実施する。	知財担当部署より関連部門への啓発及びディスカッションを 10 回以上実施	①他者特許を尊重しつつ、革新的な医薬品を継続的に生み出していくために、社内各部署への説明会、意見交換会で知的財産の重要性を啓発し、新たな知的財産の掘り起こしにつなげる。 <b>KPI</b> ✓ 年に 10 回以上実施 ✓ 他者の知財を侵害するようなことが発生していない	✓ 知財担当部署より関連部門への啓発及びディスカッションを 29 回実施 ✓ 他者の知財を侵害するようなことが発生していない	①知的財産の価値最大化を図るために、社内各部署への説明会、意見交換会で知的財産の重要性を啓発し、新たな知的財産の掘り起こしにつなげる。 <b>KPI</b> ✓ 当社の知的財産が十分に活用されている。また、その価値に損失が発生していない
②製品の価値最大化を目指し、各化合物の具体的なライフサイクルマネジメント戦略を立てる。	知的財産戦略の観点から開発化合物のライフサイクルマネジメント戦略を更新	②全ての製品と開発化合物について知的財産の視点から製剤改良等の具体的なライフサイクルマネジメントプランを検討／策定する	✓ 全プロジェクトについて知的財産の視点からライフサイクルマネジメント戦略を検討、策定	②全ての製品及び開発化合物について、ライフサイクルマネジメントの観点から、知的財産戦略の分析、企画、推進体制を強化する。
③医療アクセス改善を目的とした知的財産利用の基盤構築のため、外部と情報交換を実施し、機会に備える。	✓ 世界知的所有権機関と継続的な情報交換を実施 ✓ 「知的財産権と医療アクセスが困難な国における特許の考え方」を更新し、開示した	③医療アクセス改善を目的とした知的財産利用の基盤構築のため、外部と情報交換を実施する <b>KPI</b> ✓ 関係機関（世界知的所有権機関等）から情報を収集 ✓ 医薬品アクセス向上に対するステークホルダーの期待・当社の取り得る施策を整理し、対応方針を定める	関係機関や業界事例を調査し、当社の取り得る施策を整理した	③医療アクセス改善を目的とした知的財産利用の基盤構築のため、外部の情報収集を継続するとともに、グローバル展開を考慮した課題抽出を行い、中長期戦略を策定する。 <b>KPI</b> ✓ 医療アクセス改善を目的とした中長期戦略の策定

2019年度の計画・KPI	2019年度の進捗結果	2020年度の計画・KPI	2020年度の進捗結果	2021年度の計画・KPI
<b>製品の信頼性と安全性の確保</b> 中長期目標：品質管理業務および安全管理業務を適切に推進し、社員一人ひとりに製品の信頼性と安全性の重要性を意識づける 品質管理業務および安全管理業務を適切かつ確実に実行する。				
①問題の原因特定および原因の排除による再発防止と、起こり得る可能性のある事象を予測した防止活動（CAPA活動）を強化する。 <b>KPI</b> ✓ 品質管理業務および安全確保業務の問題の発生件数・再発件数を2018年度比で減少させる	✓ 安全確保業務：改善を要する逸脱の発生率は自社基準の0.01%を下回った(2018年度比も減少)。 ✓ 品質保証業務：各製造所における品質逸脱発生率はあらかじめ定めた基準値を下回った。製剤改良等の対応を検討する事案が自社基準（0.01%）を上回って認められたが安全性等に影響のない軽微なものであり、対策を講じている。	①安全性確保業務の問題発生率を一定水準以下に抑える。 <b>KPI</b> ✓ 規制当局への規定期間以内の報告の順守率が99.9%以上である	✓ 規制当局への規定期間以内の報告の順守率 100%	①安全性確保業務の問題発生率を一定水準以下に抑える。 <b>KPI</b> ✓ 規制当局への規定期間以内の報告の順守率が99.9%以上である  ②品質管理業務の問題の発生割合・再発割合を一定水準以下に抑える <b>KPI</b> ✓ 製品回収ゼロ ✓ 品質苦情発生率を0.01%以下とする。  ③GXP（GVP、GQP、GPSP）の法令遵守体制の強化を目指し、関連部門での研修や注意喚起を行う <b>KPI</b>
②社内研修を実施する。 <b>KPI</b> 年に一度以上、受講率100% 対象は以下の通り ✓ 品質管理業務研修：CMC 生産本部、品質保証部 ✓ 安全管理業務研修：全社員に加え、実施部門については別プログラムも実施	対象者全員が社内研修を受講した（受講率100%）	②品質管理業務の問題の発生割合・再発割合を一定水準以下に抑える <b>KPI</b> ✓ 製品回収ゼロ ✓ 品質苦情発生率を0.01%以下とする。	✓ 製品回収ゼロ ✓ 品質苦情発生率 0.01%以下	✓ 安全管理業務研修：全社員に加え、安全管理業務実施部門については別プログラムでGVP・GPSP教育、RMPを中心とする製品教育も実施 ✓ 品質管理業務研修：CMC・生産本部、品質保証部を対象に実施
		③社内研修を実施する 品質管理業務研修：CMC・生産本部、品質保証部 安全管理業務研修：全社員に加え、実施部門については別プログラムも実施	✓ 品質管理業務研修を年4回、安全管理業務研修を年約30回、計画に従って実施	

2019年度の計画・KPI	2019年度の進捗結果	2020年度の計画・KPI	2020年度の進捗結果	2021年度の計画・KPI
<b>人財育成の推進</b> 中長期目標：よりよい医薬品を患者さんに届けるべく、社員一人ひとりが、担うべき役割やキャリアについて自ら考え、熱き挑戦者たちとして行動し、国内外問わず活躍できる人財を育成する				
①ミッションステートメント浸透活動を実施する。 KPI ✓ 海外 4 拠点で実施準備、国内はキャリア入社社員全員に対して実施	✓ 海外 4 拠点全てにおいて浸透活動を実施 ✓ 国内キャリア社員に対する浸透活動：100%実施（54名） ✓ 医療ニーズ理解のための医療機関研修・患者講演会等を実施	① ミッションステートメント浸透促進活動を継続 KPI ✓ ミッションステートメントを自身の行動原則と強く意識している従業員の割合 50%以上	✓ ミッションステートメントを自身の行動原則と強く意識している従業員の割合 47%	①ミッションステートメント浸透促進活動（継続） KPI ✓ ミッションステートメントをしっかり意識して、行動している従業員割合 65%以上 ✓ 海外現地法人従業員（駐在員以外）のミッションステートメント浸透度合い 40%以上 ②各階層に求められる行動特性に沿った人財を育成するため、新入社員から管理職までの 7 階層に部門横断的に研修を実施し行動変化を促す。 KPI ✓ 研修実施後の上長評価による行動変容割合 85%以上 ③社員へ提供する自己学習と社会学習の双方の機会を拡充する。
②新入社員から管理職までを 7 つの階層の各々に求められる行動特性に沿った人財を育成するため部門横断的に研修を実施する。 KPI ✓ 対象者の研修受講率 100%	受講率：100% 全体の受講者数：603名	② 新入社員から管理職までを 7 つの階層の各々に求められる行動特性に沿った人財を育成するため部門横断的に研修を実施し行動変化を促す。 KPI ✓ 研修実施後の上長評価による行動変容割合 80%以上	✓ 研修実施後の上長評価による行動変容割合 79%	KPI ✓ 自己啓発プログラムの受講者数割合 40%以上 ④経営者候補人財の育成の仕組み強化とプール人財の拡充を行う。
③自ら選択し参加できる研修を拡充するとともに、社員が行う自己啓発への補助内容を拡充し、自律的な人財を育成する。また、社員同士がお互いに刺激しながら成長する風土を醸成する。 KPI ✓ 自己啓発プログラムの利用率 20%以上	利用率割合：27.6%（910名 / 3,272名）	③自ら選択し参加できる研修を拡充するとともに、社員が行う自己啓発への補助内容を拡充し、自律的に行動できる人財を育成する。また、社員同士がお互いに刺激しながら成長する風土を醸成する。 KPI ✓ 自己啓発プログラムの受講者数割合：33%以上	✓ 自己啓発プログラムの受講者数割合 32%	✓ 経営者候補人財を新たに 40 名育成 ✓ グローバル人財育成 20 名（2024 年度末までのグローバル人財プール目標人数：200 名。これまでに 121 名育成。） ⑤自律的なキャリア形成についての社員の理解向上 KPI ✓ 従業員のキャリア概念についての理解度 50% ✓ キャリア形成に関する e ラーニングの受講率 85%以上
④国内外の激しい環境変化に対応できる人財を育成し、組織を構築する。 KPI 語学研修を含めたグローバル人財育成プログラムや次世代幹部候補生育成プログラムを実施	グローバル人財育成プログラム受講者数：87名 次世代幹部候補生育成プログラム受講者数：69名	④ 国内外の激しい環境変化に対応できる人財の育成と、組織を構築する。 KPI ✓ グローバル人財育成プログラム実施後の、グローバル対応アセスメント（BISA テスト）にて受講者の 80%が 700 点以上（海外赴任が可能なレベル）に到達している ✓ 次世代幹部候補生育成プログラム実施後の上長評価による行動変容割合 80%以上	✓ グローバル対応アセスメントにて受講者の 83%が海外赴任可能なレベルに到達 ✓ 次世代幹部候補生育成プログラム実施後の行動変容割合：二階層で実施し、それぞれ 69%、52%	KPI ✓ 発掘プログラムへの参加人数：60 名以上 ✓ ベンチャー出向実施 ⑦デジタルトランスフォーメーション人財の育成 KPI ✓ IT パスポート取得人数 35 名

2019年度の計画・KPI	2019年度の進捗結果	2020年度の計画・KPI	2020年度の進捗結果	2021年度の計画・KPI
<b>法令遵守とコンプライアンスの徹底</b>				
中長期目標：組織のコンプライアンス意識向上と監督体制強化を図り、法令・コンプライアンス違反件数をゼロに近づける				
①コンプライアンス研修を実施する。 KPI 全従業員を対象とし、受講率100%	100%達成（全社員の受講完了）	重大なコンプライアンス違反*の発生件数0件を目標として以下の取り組みを行う。 *売上や利益に大きな影響を与えるもの KPI ✓ 重大なコンプライアンス違反件数（0件）	重大なコンプライアンス違反1件 * 2021年2月に贈賄の疑いで起訴された事案が1件（同年6月に有罪判決）	重大なコンプライアンス違反*の発生件数0件を目標として以下の取り組みを行う。 KPI ✓ 重大なコンプライアンス違反件数0件 *売上や利益に大きな影響を与えるもの及び大きな社会的インパクトを与えるもの。
②経営層が参加するコンプライアンス委員会を通じて、全社のコンプライアンスPDCAサイクルを回す。 KPIコンプライアンス委員会を年に4回以上開催	4回開催	① ✓ パワーハラスメント防止対策の義務化を踏まえた全部門リーダー研修の実施 ✓ コンプライアンス・ハラスメント意識調査を実施し、各部署の対策へ落とし込む ✓ 営業部門研修（規約・ガイドライン・コード） ✓ e-ラーニング研修（年2回） ✓ コンプライアンス・メールマガジンの配信 KPI ✓ 研修受講率（100%）	✓ 研修受講率100%	1. ① 経営層が参加するコンプライアンス委員会を四半期毎に開催し、全社のPDCAサイクルを回す ② コンプライアンス研修（e-ラーニング 年2回） ③ 新入社員研修及び新入社員フォローアップ研修 ④ コンプライアンス・ハラスメント意識調査の実施 ⑤ ④の結果を踏まえた各本部へのフィードバックと研修 ⑥ 営業本部を対象とした「規約・コード・ガイドライン」研修（年2回） ⑦ 上記の研修を対象社員に100%実施し、各研修実施後に理解度確認テストを実施し、アセスメントを行う。 ⑧ メールマガジン（小野コンプライアンス通信）の配信（毎月）
	公益社団法人商事法務研究会の内部通報制度認証（自己適合宣言登録制度）の取得	②経営層が参加するコンプライアンス委員会を四半期毎に開催し、全社のPDCAサイクルを回す	✓ コンプライアンス委員会を計画通り4回開催	2. 当社グループ海外現地法人のコンプライアンス管理を強化する。全社リスクマネジメントと連動し以下の活動を行う。 ✓ コンプライアンス研修の実施 事業計画に応じた重要なコンプライアンステーマから研修を強化する。 ✓ グローバルコンプライアンス管理体制の強化。 グローバル展開を踏まえた今後3年のロードマップを策定する

2019年度の計画・KPI	2019年度の進捗結果	2020年度の計画・KPI	2020年度の進捗結果	2021年度の計画・KPI
<b>責任あるマーケティング・プロモーション活動</b> 中長期目標：“医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン”に則った適切な情報提供活動を実施する				
①プロモーションには販売情報提供活動監督部門において審査/承認された資料を使用する。 KPI ✓ 審査/承認された資料の使用率 100%	審査/承認された資料の使用率は100%達成	重大なコンプライアンス違反*の発生件数0件を目標として以下の取り組みを行う。 *売上や利益に大きな影響を与えるもの KPI ✓ 重大なコンプライアンス違反件数0件	重大なコンプライアンス違反1件 *2021年2月に贈賄の疑いで起訴された事案が1件(同年6月に有罪判決)。「法令遵守とコンプライアンスの徹底」に記載の事案と同じ	重大なコンプライアンス違反*の発生件数0件を目標として以下の取り組みを行う。 *売上や利益に大きな影響を与えるもの及び大きな社会的インパクトを与えるもの KPI ✓ 重大なコンプライアンス違反件数0件
②自社主催講演会において、ガイドラインに沿った社内規定のもと適切な情報提供を演者に依頼する。 KPI ✓ 受諾率100%	受諾率100%(スライド事前確認実施率61%)	①販売情報提供活動ガイドラインに沿った活動を遵守させるため、営業活動に関わる全従業員に対して、社内研修を実施する。 KPI ✓ 年4回	✓ 研修年6回実施	①ガバナンス体制強化：営業活動における社内ルールの再整備を行い、法令遵守と共に再徹底する。 また、不適切な活動が未然に防がれる報告体制(上長・通報)を構築し、これらを目的とした全営業社員向けの社内研修を定期実施する。
③営業活動に関わる全従業員に対して、社内研修を実施する。 KPI ✓ 年4回	年6回実施	②自社主催講演会においてガイドラインに沿った社内規定のもと適切な情報提供を演者に依頼し、スライド事前確認を行う。 KPI ✓ スライド事前確認実施率100%	✓ 講演会スライド事前確認実施率99%	②販売情報提供活動ガイドライン(講演会)： ・自社主催講演会におけるスライド事前確認を確実にし、ガイドラインから逸脱した情報提供を防止する。 KPI ✓ スライド事前確認実施率100% ・自社主催講演会開催時において安全性と有効性のバランスの取れた情報提供体制を確実にし、 KPI ✓ 全ての自社主催講演会において安全性情報を提供 ③販売情報提供活動ガイドライン(面談)：医療関係者との面談時に、適切な情報提供が行われる体制を構築する。 KPI ✓ 不適切な情報提供実施MR0人 ④ガイドライン遵守のアクセスメント：MRの日常活動において、以下が適切に行われているか定期的にアクセスメントを行い、不適切事例は原因を明確にし、対応策を報告することで再発防止する。(講演会時のスライド事前確認、安全性情報提供、面談時の情報提供活動)

2019 年度の計画・KPI	2019 年度の進捗結果	2020 年度の計画・KPI	2020 年度の進捗結果	2021 年度の計画・KPI
		③各営業所長が所員の活動への同行時に、以下の活動が適切に行われているかアセスメントを行う 1) 面会時の情報提供活動 2) 自社主催講演会スライドの事前確認 不適切であった場合にはその原因を明確にし対応策も考えた上で、本社と以降の対応について報告・協議する KPI ✓ 1 回/月の頻度で実施	✓ アセスメントを 1 回/月の頻度で行い、課題抽出・対策を実施	KPI ✓ 営業所長責任の下、MR 活動のアセスメントが定期的に行われ、原因明確化と対応策を講じる運営が継続される体制を構築。
<b>気候変動への対応</b>				
中長期目標：2030 年までに CO2 排出量 55%削減する（2017 年度比）				
科学的な知見と整合した目標を立て、目標に向けた CO2 排出量削減に取り組む。 KPI ①SBT の target set 承認取得 ②前年度比 CO2 排出量 4%削減（スコープ 1+2）	①SBT の target set 承認取得、②前年度比 CO2 排出量 4%削減（スコープ 1+2）達成	①温室効果ガス排出量削減に向けた継続した取り組み KPI ✓ 2017 年度比 12.6%削減（スコープ 1+2） ②再生可能エネルギーの利用率向上 KPI ✓ 12.6%以上 ③RE100（2050 年までに再生可能エネルギー 100%化にコミットする国際的イニシアチブ）への参加の表明	✓ 2017 年度比 12.6%削減（スコープ 1+2） ✓ 13.2% ✓ 2020 年 6 月に加盟	① 温室効果ガス排出量削減に向けた取り組みの強化 KPI ✓ 2017 年度比 16.8%削減（スコープ 1+2） ②再生可能エネルギー利用率の向上（再生可能エネルギー利用量／全電力消費量） KPI ✓ 16.8%以上 ③特定フロン使用機器全廃に向けた取り組み KPI ✓ ロードマップ作成

2019 年度の計画・KPI	2019 年度の進捗結果	2020 年度の計画・KPI	2020 年度の進捗結果	2021 年度の計画・KPI
<b>製品の安定供給</b>				
中長期目標：確実な品質確保が可能な製品設計および安定供給体制を確立する 新たな医療ニーズを把握し、製品設計に展開する				
「医療現場からの要望や医療ニーズを迅速に吸い上げる体制」を積極的に活用し、把握した医療ニーズを製品改良や新製品へ応用する。	4 つの製品において医療現場から得られた医療ニーズを製品デザインの設計に取り入れた。 医療ニーズに関するアドバイスについてはアドバイザー契約を締結した 10 施設からの意見収集を行った。	1. 「医療現場からの要望や医療ニーズ」を製品改良や新製品へ継続的に取り入れる。 <b>KPI</b> ✓ 医療ニーズ収集のための担当部署による医療現場調査回数：24 回以上 ✓ 新たに設計する包装資材について、4 製品以上で改良を目指す。	✓ 医療現場調査回数 72 回 ✓ 7 製品で改良を実施	1. 「医療現場からの要望（医療ニーズ）や環境社会の要望（社会ニーズ）」を製品改良や新製品へ継続的に取り入れる。 <b>KPI</b> ✓ 医療ニーズ収集のための担当部署による医療現場調査回数 100 回以上 ✓ 新たに設計する包装資材について、5 製品以上で改良を行う。 ✓ 環境に配慮した包装資材の採用をさらに進める ・ FSC 認証紙の採用：5 品目追加（現在 7 品目に採用） ・ バイオマスプラスチックの採用：開発品 4 プロジェクトで検討  2. 製品を安定的に市場に提供する。 全製品を対象とした BCP 時の安定供給計画の立案： ①製品の優先度（重要度、カテゴリ-I~V）の方針確立 ②サプライチェーンの可視化 ③重要製品のパートナー会社及び供給者の BCP に関するポリシーの確認 ④製品毎のリスク低減策（製造拠点複数化、安全在庫の確保、調達・製造リードタイムの短縮等）の実行 ⑤危機対応・事業継続マニュアルの更新 <b>KPI</b> ✓ 製品別の適正在庫月数を確保する
		2. 製品を安定的に市場に提供する。 <b>KPI</b> ✓ 製品特性に応じた適正在庫量を再設定し、確保する	✓ 製品特性に応じた適正在庫量を再設定、確保した	

2019 年度の計画・KPI	2019 年度の進捗結果	2020 年度の計画・KPI	2020 年度の進捗結果	2021 年度の計画・KPI
<b>CSR 調達推進によるサプライチェーン管理</b>				
中長期目標：CSR 活動を調達先とともに推進し、健全で強固な（レジリエント）サプライチェーンを構築する				
CSR 調達の調査を取引先に対して実施する。 KPI 購買金額の 70%にあたる取引先に対して調査実施	購買金額の 86%にあたる取引先に対して調査を実施	① 前年度調査対象企業において CSR 調達の取り組みが改善 KPI ✓ 全調査対象企業の 2020 年度総合スコア平均が 2019 年度と比較し上昇  ②当社基準を満たさなかった企業をサポートし、改善につなげる。 KPI ✓ 個々の対象企業の 2020 年度総合スコアが 2019 年度と比較し上昇	✓ EcoVadis 社の CSR 評価システムにて、総合スコア平均が 3.3 点上昇  ✓ 前年比スコア上昇なし：5 社	①サプライチェーンマネジメント上の CSR 管理体制を強化する ・ サプライチェーン全体の CSR リスク分析実施 ・ CSR 調達方針とガイドラインの見直し ・ 社員の意識向上のための研修実施 KPI ✓ 社員研修後の理解度調査  ② 当社基準を満たさなかった企業先を継続してフォローし改善を確認する KPI ✓ 個々の対象企業の総合スコア
<b>コーポレートガバナンスの向上</b>				
中長期目標：会社の持続的な成長を実現するための実効的なガバナンス体制の構築				
—	—	—	—	①取締役会の機能向上によるガバナンスの強化 ・ ステークホルダーとの対話や取締役会実効性評価を通じた取締役会の機能向上への取り組みの継続  ②持続的な成長を支えるガバナンス体制の構築 ・ リスクマネジメントに係る諸施策について、取締役会による継続的なモニタリング



2019 年度の計画・KPI	2019 年度の進捗結果	2020 年度の計画・KPI	2020 年度の進捗結果	2021 年度の計画・KPI
<b>雇用の確保・維持、働きがいのある職場環境作り</b>				
中長期目標：全従業員が医薬品産業で働いているという誇りを持ち、様々な背景を持った社員が能力を発揮し、活躍することができる職場環境作りを推進することで、雇用の確保・維持に繋げる				
①人事諸制度の構築や運営等を通じて、ダイバーシティの推進やワークライフバランスの向上に取り組み、多様な人材が働きがいを持って活躍できる職場環境作りを行う。 <b>KPI</b> ✓ プラチナくるみんの取得、年次有給休暇取得率向上	✓ プラチナくるみん取得 ✓ 年次有給休暇率は 2018 年度：57.5%から 2019 年度：65.0%へ向上	①人事諸制度の構築や運営等を通じて、ダイバーシティの推進やワークライフバランスの向上に取り組み、多様な人材が働きがいを持って活躍できる職場環境作りを行う。 <b>KPI</b> ✓ 年次有給休暇取得率 2020 年度：70.0%（2019 年度：65.0%） ✓ 育休からの復職率 100% ✓ 低離職率（3%以下）の維持 ✓ 勤務間インターバル等の働き方改革推進による平均時間外勤務時間の短縮（2019 年 13.6 時間/月⇒2020 年 13.0 時間/月）	✓ 年次有給休暇取得率 58.8% ✓ 育休からの復職率 100% ✓ 離職率 2.3% ✓ 平均時間外勤務時間 15.3 時間	①人事諸制度の構築や運営を通じてダイバーシティを推進し、多様な人材が活躍できる職場環境作りを行う。 <b>KPI</b> ✓ 係長級に占める女性比率 14.0% ✓ 男性の育児関連休暇取得率 72.5% ✓ えるぼし取得 ✓ 育休からの復職率 100% ✓ 主任級以上を対象とした次期経営者育成研修参加者に占める女性割合 30%以上  ②人事諸制度の構築や運営を通じてワークライフバランスの向上に取り組み、社員が健康で生き活きと能力を発揮して活躍できる職場環境作りを行う。 <b>KPI</b>
②健康経営の浸透および取り組みを推進する。 <b>KPI</b> ✓ 健康経営優良法人（ホワイト 500）認定の継続取得 ✓ 就業時間中禁煙の実施 ✓ 人間ドック受診率 95%以上 ✓ ストレスチェック受検率 95%以上	✓ 健康経営銘柄 2020 に初認定、健康経営優良法人（ホワイト 500）も継続認定 ✓ 就業時間中の禁煙の実現 ✓ 人間ドック受診率 99.7% ✓ ストレスチェック受検率 99.8%	②健康経営の浸透および取り組みを推進する。 <b>KPI</b> ✓ 健康経営銘柄 2 年連続獲得 ✓ プレゼンティズム改善による労働生産性の向上 社員 1 人あたり 1 ヶ月の損失額： 2019 年度（33,120 円） 2020 年度目標：5%削減（31,460 円） ✓ 健康度の改善による健康年齢向上 健康年齢と実年齢の差（35 歳以上_平均）： 2020 年度目標 -2.0 歳 （2019 年度 -1.5 歳） ✓ 喫煙率の改善 2020 年度目標 17.0% （2019 年度 18.2%） ✓ 低度数率（0.3）の維持 2020 年度 0.10（2019 年度 0）  ✓ 「多様性を活かし、働きがいを持って仕事ができていると実感している社員の割合」が 50%以上（目標①及び②）	✓ 健康経営銘柄未選定（上位 5%以内） ✓ プレゼンティズム改善：社員 1 人あたり 1 ヶ月の損失額 65%増 ✓ 健康年齢と実年齢の差 -1.4 歳 ✓ 喫煙率 17.0% ✓ 休業災害度数率 0.47  ✓ 「多様性を活かし、働きがいを持って仕事ができている」と実感している社員の割合 68%	✓ 年次有給休暇取得率 70.0% ✓ 平均時間外勤務時間 13.0 時間/月 ✓ 低離職率（3%以下）の維持  ③健康経営の浸透および取り組みを推進する。 <b>KPI</b> ✓ 健康経営銘柄への再選定 ✓ プレゼンティズム改善による労働生産性の向上（損失額の削減） 社員 1 人あたり 1 ヶ月の損失額： 2021 年度目標 31,460 円（2019 年度比 5%削減） ✓ 健康度の改善による健康年齢向上 健康年齢と実年齢の差 -2.0 歳（35 歳以上_平均） ✓ 喫煙率の改善 2021 年度目標 16.0%